

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270101744		
法人名	アサヒ電器株式会社		
事業所名	グループホーム 陽だまりの里		
所在地	〒030-0943 青森市幸畑字阿部野163-331		
自己評価作成日	令和4年11月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和4年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

八甲田山の麓のリンゴ、ブドウ園がある自然豊かな環境の中で気持ち豊かに「楽しく、その人らしく・安心・安全・健康・生活の継続」の理念を基にして、毎日生活を続けています。今年も、コロナウイルス感染予防に気を付けながら、毎年恒例にしてきたお花見を施設の駐車場でリンゴの花を見ながら昼食を食べたり、スタッフの踊りを披露したり、夏祭りを屋台風にしてスタッフと入居者様だけで行いました。毎日の日課として入居者様と一緒に季節の飾り作りをしたり、簡単な足し算や漢字の書き取りなど脳トレを習慣化する事で脳の活性化を図り、認知症予防に取り組んでいます。コロナで面会制限が続いていますので、施設のホームページにご家族様専用のページを作成し、日常の様子やお誕生会などイベント時の画像を載せています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

開設当初から変わらない「楽しく、その人らしく、安心、安全、健康、生活の継続」の理念を常に職員間で共有しながら、毎日明るい職員の皆と笑いの絶えない環境の中で日常生活を送っている。コロナ禍の中でも桜の花を車の中から見るとドライブや事業所内の駐車場で隣のリンゴの花を見ながらお昼ご飯を食べたりするなど、入居者を楽しませる工夫をされている。月に1度のお便りは欠かさず送ることや、変化があればその都度電話で連絡したりホームページを利用することで家族とのコミュニケーションを図る事が出来ている。コロナ以前は町内会長や婦人会の訪問や夏祭り開催などで近隣との交流も図れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域でのグループホームとしての役割を考え、話し合い、開設当初の理念を継続し、常に念頭に入れ介護の実践のよりどころとしている。	開設当初からの理念を各棟と事務所に掲げ、日々の生活の中で全職員が確認し、実践することができ、常に振り返りを行い、共有することが出来ている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染防止の為、思うように交流が出来なかった。コロナの感染状況を見ながら、町会の総会に参加したり、夏祭りを行ったり、女性会の方々との交流を開始していきたい。	コロナ前は年1回の夏祭りの際に町内会長や女性婦人会の手踊りや実習生の方が運営の手伝いに来てくれたり、地域と交流をもつ事が出来ていたが、状況を見ながら再開を考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は夏祭り等の機会に来訪していただき、一緒に食事をする等して認知症についての理解を深めてもらう機会があったが、感染症予防の為なかなか実施できない状況である。電話での相談は常時受け付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ感染防止の為、書面での開催になった。地域包括支援センターや町内会長、町内の女性会会長、ご家族様へ電話をし、近況報告をしたり、意見や家族の想いを聞き、介護にいかしている。また、会議の内容は玄関に会議録を設置し閲覧出来るようにしている。	コロナ禍で運営推進会議は開催出来ていないが、書面開催となり、参加メンバーに資料を送り、意見等はファックスや電話で貰えるようにしている。家族の方がなかなか意見をいうことが無いので、支払い等で来訪時に意見を貰うようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会の結果や、利用者状況を報告し確認を取っている。また要介護認定の事で分からない事があれば、その都度、相談している。	コロナ禍において市役所はメールで情報を送ってくるが、事業所からは、メール以外に直接、窓口に出向き、情報の提供、相談を行い、日ごろから、連携をとることが出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は日常的に施錠せずに、家族の方や近所の方がいつでも訪問出来るようにしている。身体拘束・高齢者虐待防止委員会を3ヶ月に毎に開催し、又、研修を行い、拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束・高齢者虐待防止委員会を立ち上げ、3ヶ月に1度職員が研修することで、日々のケアの振り返りをしながら拘束しないケアや声がけに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の勉強会を開催し、皆で何が虐待になるのかを考えたり、スタッフ間で意見交換をして常に虐待防止の意識を高く持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方がいるので、実際に後見人と話す機会やその場面を見る機会があり、理解を深め、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始の契約の際には、ご家族様や本人の不安や希望・意見を聞きながら、時間をかけて説明を行い、理解していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に家族意見箱を設置している。月に1回お便りにて、近況報告をしたり、体調の変化などがあれば、その都度電話連絡を行っている。希望を話せる関係作りを行っている。	毎月1回お便りで、本人の状況の報告をしているが、不満は聞かれていない。通院などで電話連絡をした時に常に意見を聞くようにしている。意見箱の設置はあるが意見を入れる人はいない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフが意見や提案等を出しやすいように、スタッフと積極的にコミュニケーションを取り、話しやすい関係を保つよう心掛けている。	代表者と職員の話す機会は年に2回程であるが、職員同士では日常的に意見や提案を話せる程、コミュニケーションは取れている。管理者は要望もその都度、聞き入れるように心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はスタッフの良い所を認め、苦手なところを克服できるよう相談にのれるよう心掛けている。また、勤務状況など困っている事がないかも聞けるよう心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染対策の為、内部研修を行った。内部研修を行う事で、自身の普段の仕事の振り返りや再確認につながった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンライン研修で交流の場を持ち、意見交換を行う事が出来た。外部研修など同業者との交流の場があった時には、コロナの感染状況を見ながら、参加していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は不安が多いと思うので、話しかけやすい環境を整え、小さな事にも耳を傾け、気軽に話ができるような関係性を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始の際には、家族から本人の現状や不安に思っている事を詳しく聞き、家族に信頼していただけるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族からの情報や地域包括支援センターや病院からの情報をスタッフ間で共有し、何を一番に支援していくのか話し合い、分析した上で適切なケアが出来るように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活を一緒にしている、という事を大事にし、入居者様の事を親身になって考え、助け合いながら過ごす事で信頼関係が深まるように心がけて生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には毎月のお便りやホームページにご家族様専用のページを作成し、ホームでの状況をお知らせしている。面会に訪れた際にも近況報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方の家族から荷物や誕生日プレゼントが届けられた時には、電話をしたり手紙を出している。又、教え子だった方等から電話が来た時には、周りの雑音に気をとられず会話ができるように気を付けている。	昔からの美容院に行くことで馴染みの関係を継続したり、昔の教え子からの電話で会話する入居者もあり、定期的な交流が図られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の普段の様子や会話から関係性を見極め、馴染みの関係が作りやすいように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて、家族の相談にのり、介護サービスの説明をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ち、希望、想いを重視した上で検討し、ケアプランにそって、スタッフ間で共有して統一した介護に取り組んでいる。	言葉に出して伝えてくれる方からは思いや希望や意向を引き出すよう努め、伝えることが難しい方には表情や入居前の生活の習慣や家族からの聞き取りで把握し、職員が同じケアが出来るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴や大事にしてきた事などを聞きとり、把握して介護に活かすようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日生活を共にする事で、利用者それぞれの生活のペース、心身の状況、出来る事出来ない事を把握し、記録に残す事でスタッフ間で共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族や必要な関係者からの意見や申し送り等の記録を基に現状を把握し、話し合いで出た意見やアイデアを反映させた介護計画を作成するように心掛けている。	新規に入った方は2週間に1度の見直しと、長く入居している方は6ヶ月に1度の見直しをしながら日々関わっている。職員や家族の意見を貰いながら話し合いをし、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活や心身の状態をよく観察し、どのように支援したか、結果どうだったのかを記録、スタッフ間で共有し、計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良や症状の変化により、家族の方に相談しながら専門医への受診等に行ったり、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染防止の為、行う事が出来なかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人一人のかかりつけ医の受診に付き添い、医師に状態報告・説明をしながら、必要に応じた病院を紹介してもらい、家族と相談しながら入院や治療を行っている。適切な医療が受けられるよう支援している。	受診は、訪問診療の機会を設け、入居者の事情により職員同行によりかかりつけ医の受診の支援を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	細かな身体状況・精神状況などを観察し、ホーム内の看護師に状況報告を行い、家族と相談しながら、適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には訪問し、家族や本人を励まし、早期離床を回復し、退院できるように病院関係者と情報交換を行っている。退院後の生活も安心して過ごせるように相談や連絡をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とは早い段階で認知症の重度化、終末期の過ごし方について、ホームで出来る方法について説明しながら話し合い、決まった方針を共有し、医療機関と連携し支援している。	家族に対し、早い段階で重度化、終末期の在り方について説明する機会を設け、入居者の状況に合わせ、その都度、関係者間で話し合いがなされ、方針が共有されている。緊急時はいつでもかかりつけ医が駆け付けてくれる様に連携が出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフは、普段との違いをいち早く気付けるように日々の変化を観察し共有している。起こりうる急変に備えての対応を勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消火・避難・災害時の訓練や消防安全センターの方に訓練をみていただき、アドバイスを受けている。	年に2回の火災と地震の避難訓練を行っている。夜間想定訓練では夜勤者が1人で声掛けや移動等を行っている。実際の有事の際は、町内会に協力が得られる体制をとっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、プライバシーを損ねないよう気を付け、思いやりある介護が出来るようにスタッフ間でも注意し合っている。	外部・内部研修で人格の尊重の研修をし、言葉かけやプライバシーに関することで尊厳を無視した対応をとらないようにしている。トイレに行くときにもさりげなく誘導するなど、思いやりのある対応が出来るように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれの想いや、希望を話しやすいような関係性が保てるように心がけて接している。又、自己決定が出来るように、本人の気持ちと言えるような会話を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースを大切に介護出来るように、その人に合わせた時間の取り方を工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	状況にあった身なりが出来るように、本人と一緒に考えたり、好みを活かしたアドバイスをしたりして、楽しめるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話でそれぞれの食の好みを聞き、献立に反映させている。又、近所で採れた野菜を使い季節を感じてもらえるようにしている。一緒に楽しみながら、準備や後片付けを行っている。	冷蔵庫から食材を出してもらったり、出来た料理を運んでもらうなど、出来ることは一緒にやってもらっている。近所の方が野菜を持ってきてくれたり、移動販売から野菜を買ったりして四季を感じる献立を職員で考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合った摂取量や好みを把握して食事を提供している。水分補給も十分に摂れるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人の口腔状況や能力に合わせ、歯ブラシやスポンジブラシを使用している。声かけや見守り、介助を行っている。口腔内の清潔が保てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄チェック表をつけて排泄パターンを把握し、トイレで排泄出来る様に声がけをしたり誘導している。	排泄チェック表を活用したり、声掛けやしぐさなどでタイミングを見て誘導している。職員間で話し合い、本人に合わせてパットの大きさも午前と午後で変えたり常に一人ひとりの排泄の把握が出来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が認知症に悪影響を及ぼす事を認識し、排泄状況をチェックしている。献立に野菜を多く取り入れたり、水分不足にならないように水分摂取量を計測したり、体操を行い予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日は月曜日と金曜日と決めてはいるが、本人の体調や希望により、いつでも入浴できるようにしている。	入居者が女性のみという事もあり、希望される入居者は2人で入浴している。月曜日と金曜日の前の日に職員と一緒に入浴の準備をし、曜日をきちんと把握できるので、入浴の曜日が決まっていることに不満は聞かれていない。状態に応じて機械浴も可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの体調や体力・生活習慣を考慮して就寝していただいている。落ち着いて安心して眠れるような雰囲気作りに気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時に服薬出来ている事を確認し、薬の副作用や用法・用量を理解出来るよう、それぞれの服薬している薬の一覧を見やすいようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日生き生きと張りのある日々が過ごせるように、出来る事を手伝ってもらって役割を感じてもらい、趣味を生かしての作品作りを行ってもらったり楽しんでもらえるように工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染防止の為、主治医意見書作成やワクチン接種等の通院以外の外出は出来なかった。施設の駐車場で外気浴を行った。	今までは花見をしたり、外の駐車場にテーブルを出して隣のリンゴ畑の花を見ながら食事をしたり、桜を見るドライブに出かけたりしている。コロナ禍で外出が出来ていないので、これからは徐々に再開予定である。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、自己管理の出来る方には少額のお金を所持し管理してもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もおり、家族からの電話にいつでも出られるように支援している。知人や家族からの贈り物には、お礼の電話や手紙を送ったりしている。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、快適に過ごせるように空間の明るさや音によって不快にならないように気を配っている。又、季節を感じられるような植物を飾ったり、壁に装飾をしている。	季節に合わせて職員と一緒に作成した作品を飾り付け、心地よく過ごせるようにしている。エアコン・パネルヒーターを設置して一定の温度、加湿器で湿度を保っている。毎日窓を開けて換気し、予防対策もしている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外が眺められる所にベンチを置いて一人でも馴染みの方同士でも過ごせるようにしている。玄関エントランスでも過ごせるように椅子を置いたり、危険がないか見守られるようにしている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、使い慣れたものを持ってきてもらい、安全かつ居心地よく暮らせるように工夫している。	ベッドとクローゼットは設置されており、配置は本人と一緒に相談して落ち着いて暮らせるように工夫しながら決めている。数人の方が仏壇を持参し、毎朝ごはんとお水を職員がお供えすると、本人が手を合わせて拜むという習慣も出来ている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のないバリアフリーの造りで、トイレ・廊下・浴室には手摺りを設置し、安全に散歩や移動が出来、自立した生活が送れる様に工夫している。	